SBI Liquidity Market

オプショントレードにも、スポットトレードにも生かせる！

Dailyオプションレポート

2019年12月9日(月)

重要イベント情報 (※1)・大口足情報 (※2)

※1 SBIリクイディティ・マーケットでは重要イベントのイベント・プレミアムを日数ベースで管理しています。例えばある日本のイベントにおけるイベント・プレミアムが0.5日分の場合、そのイベントにおいて日本円を含む通貨ペアで0.5日分の値動きが出ると予想されている事を表現しています。

※2 オプション市場で観測されている大口のストライク、及び、取引量情報。オプション市場参加者による取引の影響でスポットはオプションのカットタイム(※3)にかけて大口足に引き寄せられやすいと言われている。1本=1百万通貨単位。
（出典：Bloomberg）（スポットの値動きを保証するものではありません）

※3 カットタイムは東京15時とニューヨーク10時(東京23時(夏時間)・東京24時(冬時間))の2つが主要なものです。

12月9日(月)			12月10日(火)			12月11日(水)		
イベント			イベント			イベント		
			CNH	消費者物価指数	0.25日	USD	消費者物価指数	0.25日
						USD	FOMC	2.00日
大口足			大口足			大口足		
USD CAD	1.3220	1,040本	USD JPY	108.00	1,010本	USD JPY	109.00	1,110本
USD CAD	1.3300	1,540本	USD JPY	109.00	2,530本	AUD JPY	73.40	995本
USD CNH	7.5000	1,060本	EUR USD	1.0900	1,010本	AUD USD	0.6500	1,080本
			EUR USD	1.1070	1,550本			
			EUR USD	1.1500	1,090本			
			GBP USD	1.2900	1,100本			
			USD BRL	3.7000	1,160本			
			USD BRL	3.8000	1,420本			
			USD BRL	3.8500	1,100本			
			USD BRL	3.9500	1,430本			

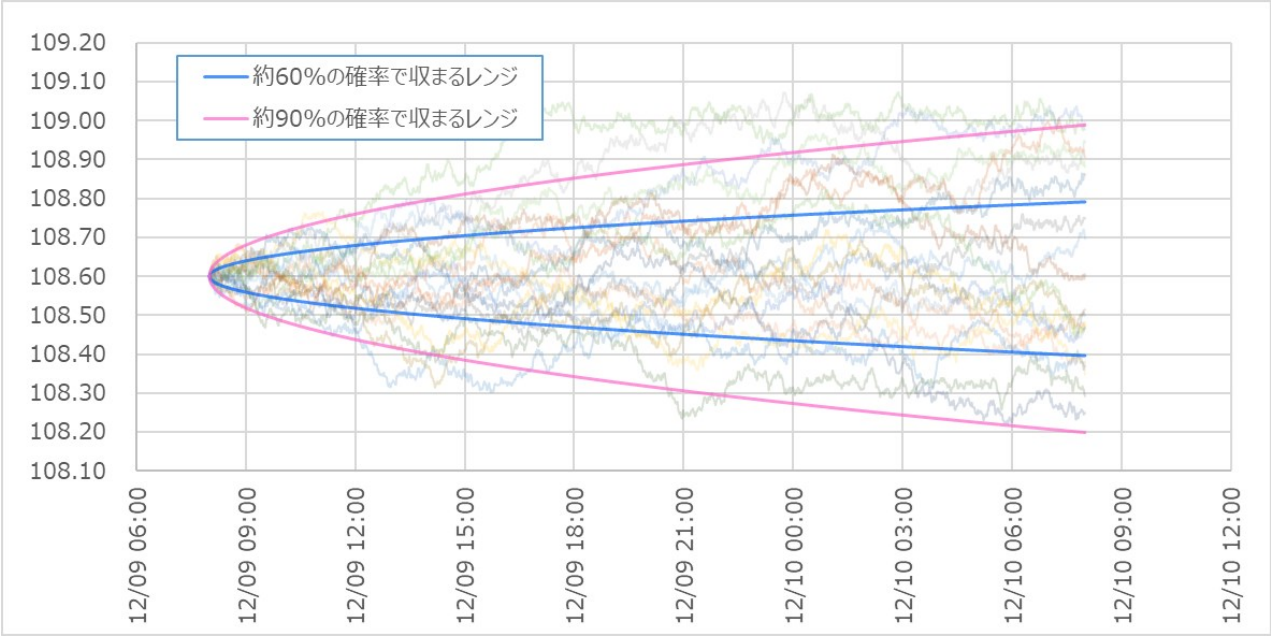
今週は多くのビッグイベントが存在
- 米FOMC
- 欧ECB
- 英総選挙
- 米中関税発動期限

12月12日(木)			12月13日(金)			12月14-15日(週末)		
イベント			イベント			イベント		
TRY	政策金利発表	2.00日	TRY	鉱工業生産	0.10日	CNH	関税発動期限	4.00日
EUR	ECB	1.50日	USD	小売売上高	0.10日	JPY	関税発動期限(影響)	1.00日
GBP	総選挙	25.00日						
大口足			大口足			大口足		
			USD JPY	106.00	1,940本			
			GBP USD	1.3250	1,020本			

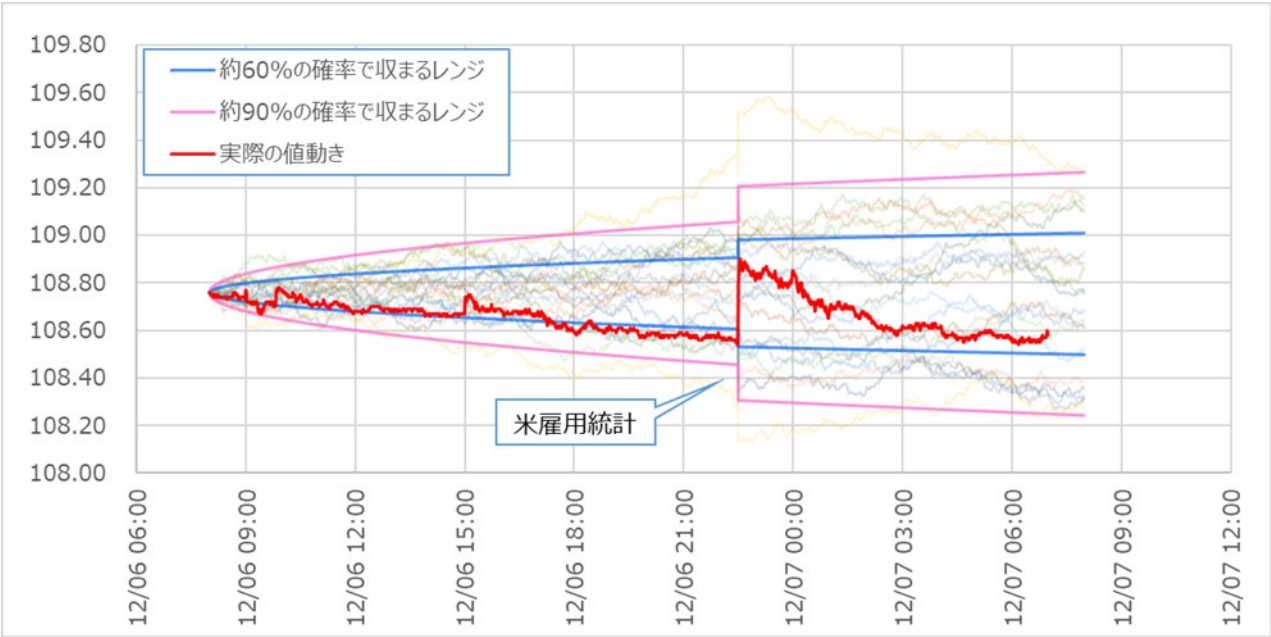
スポット・シミュレーション

- SBIリクイディティ・マーケットのオプション評価モデルに基づいた本日のスポット値動きのシミュレーション結果です。
- 細い線のそれぞれの色が1回のシミュレーション結果で、20回分の結果を記載しています。
- 太い線はそれぞれオプション市場から計算される、スポットがレンジ内に収まる確率を表しています。
- シミュレーション結果は実際のスポットの値動きを保証するものではありません。

ドル円・本日のシミュレーション（2019年12月9日(月)8時時点）



ドル円・昨日のシミュレーションと結果（2019年12月6日(金)8時時点）



SBILMボラティリティ・サーフェス (※4)

※4 SBIリクイディティ・マーケットのオプション評価モデルに基づいた、**イベント・プレミアムを加味した実質的なインプライド・ボラティリティ(SBILMボラティリティ)**のスマイルカーブ(※5)、及び、タームストラクチャーを記載しています。SBILMボラティリティは実際にオプション市場で取引されるインプライド・ボラティリティとは値が異なりますが、日付やイベント等に左右されず、安定的にボラティリティの数値同士を比較することができるSBIリクイディティ・マーケット独自のボラティリティ指標です。

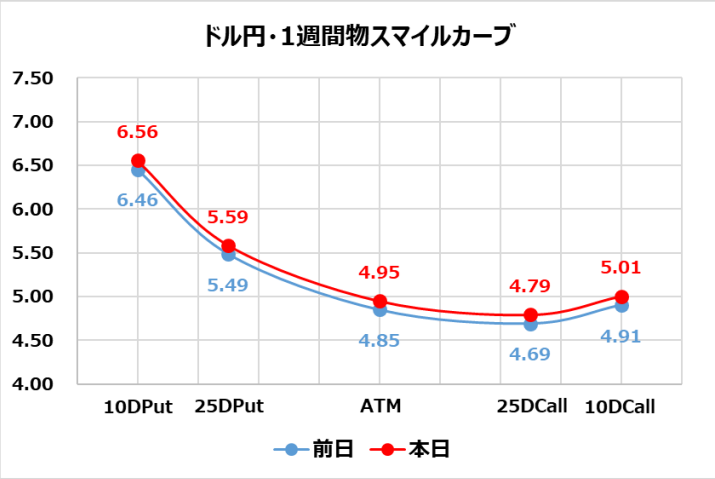
※5 スマイルカーブとは、同じ期日でもストライクが異なるとインプライド・ボラティリティも異なるという特性を、それぞれのストライク毎に図示したものです。これが示唆することは、例えば、左側のPutサイドのボラティリティが高くなれば、オプション市場はよりスポット下落に注意を払っているということ、逆にCallサイドが高くなればスポットの上昇警戒感の高まりを表します。

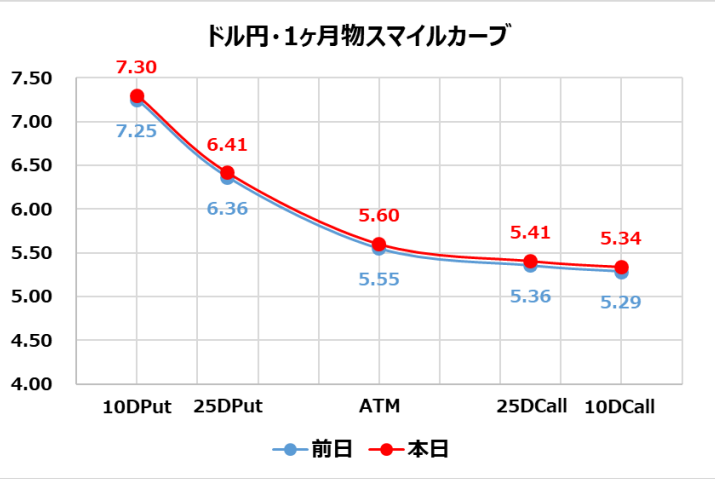
ドル円・スマイルカーブ

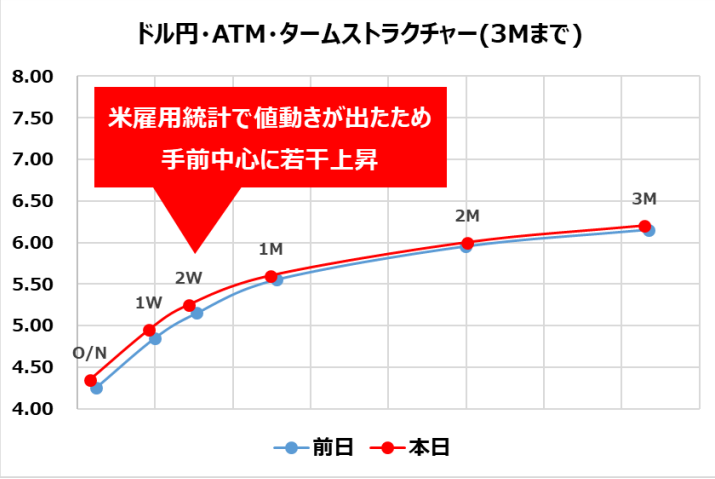
期日	対象日	10D Put	25D Put	ATM	25D Call	10D Call
1W	本日	6.56%	5.59%	4.95%	4.79%	5.01%
	前日	6.46%	5.49%	4.85%	4.69%	4.91%
	差分	⇧ 0.10%	⇧ 0.10%	⇧ 0.10%	⇧ 0.10%	⇧ 0.10%
1M	本日	7.30%	6.41%	5.60%	5.41%	5.34%
	前日	7.25%	6.36%	5.55%	5.36%	5.29%
	差分	⇧ 0.05%	⇧ 0.05%	⇧ 0.05%	⇧ 0.05%	⇧ 0.05%
3M	本日	8.39%	7.19%	6.20%	5.80%	5.67%
	前日	8.34%	7.14%	6.15%	5.75%	5.62%
	差分	⇧ 0.05%	⇧ 0.05%	⇧ 0.05%	⇧ 0.05%	⇧ 0.05%

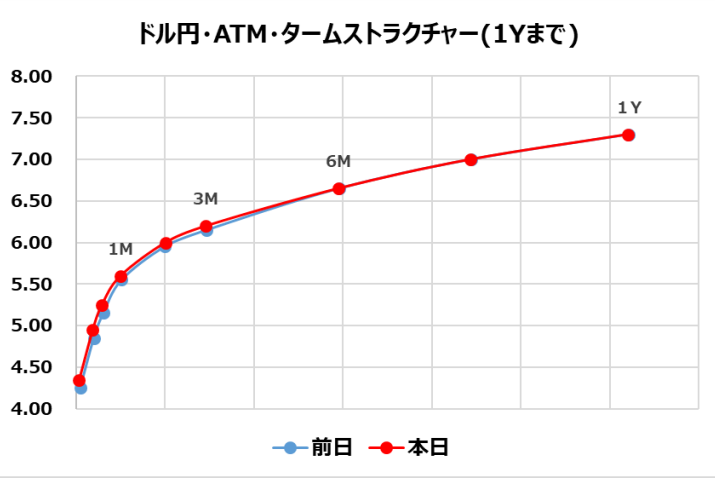
ドル円・ATM・タームストラクチャー

期日	本日	前日	差分
ON	4.35%	4.25%	⇧ 0.10%
1W	4.95%	4.85%	⇧ 0.10%
2W	5.25%	5.15%	⇧ 0.10%
1M	5.60%	5.55%	⇧ 0.05%
2M	6.00%	5.95%	⇧ 0.05%
3M	6.20%	6.15%	⇧ 0.05%
6M	6.65%	6.65%	⇧ 0.00%
9M	7.00%	7.00%	⇧ 0.00%
1Y	7.30%	7.30%	⇧ 0.00%







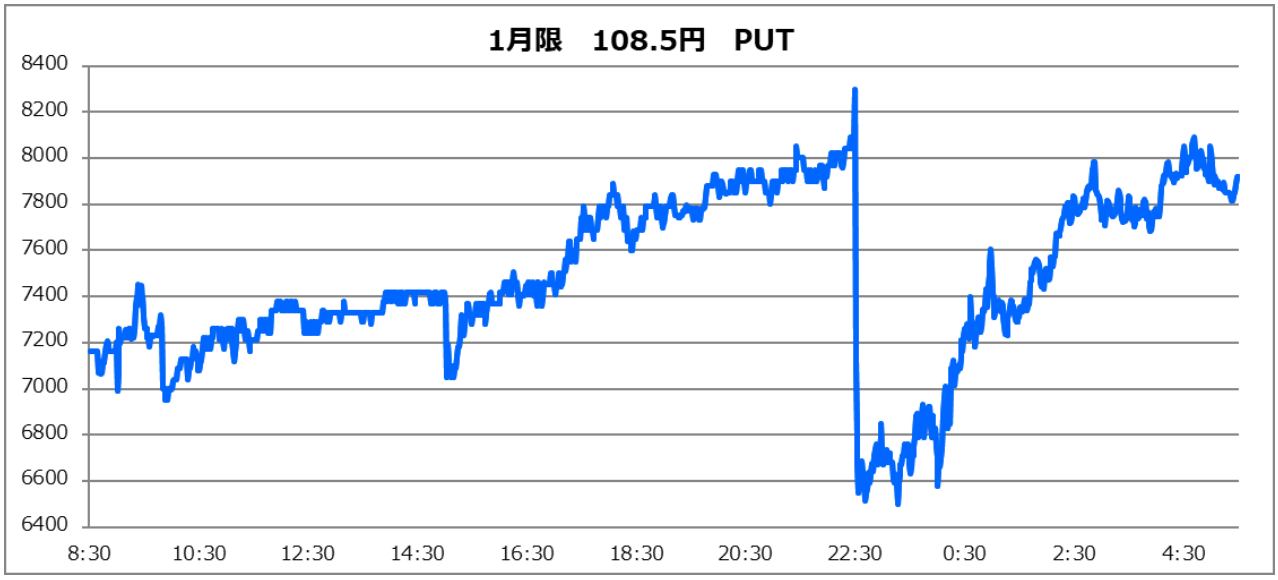


オプションFXプレミアム推移

2019年12月6日(金) 営業日取引

PUT				
権利行使価格	始値	高値	安値	終値
109.00	9,830	11,230	8,860	10,850
108.50	7,160	8,295	6,450	7,920
108.00	5,200	6,050	4,695	5,750

※新規購入サイドのプレミアム価格



CALL				
権利行使価格	始値	高値	安値	終値
109.00	4,075	4,920	3,340	3,450
108.50	6,420	7,540	5,405	5,565
108.00	9,480	10,830	8,210	8,420

※新規購入サイドのプレミアム価格

オプションFX用語集

インプライド・ボラティリティ – インターバンク市場でオプション取引に使用される価格変動率。オプションの価値算出に使用されるパラメーターで、ヒストリカル・ボラティリティが過去の値動きの価格変動率なのに対し、インプライド・ボラティリティは**将来の値動き**を市場参加者が予想した価格変動率になる。

ヒストリカル・ボラティリティ – スポットの**過去の値動き**から計算される価格変動率。将来の価格変動率の予想値であるインプライド・ボラティリティを求める際の参考値となる。インプライド・ボラティリティは将来マーケットクラッシュなどが起きる可能性を含んだリスクプレミアムが乗っているため、ヒストリカル・ボラティリティより高くなりがち。

リスクリバーサル – リスクリバーサルは、もともとオプションの取引手法の名前。一般的には行使期日、想定元本、デルタが同じ OTM(アウト・オブ・ザ・マネー)のコールとプットを反対売買する取引のこと。スポットの値動きが単純なランダムであれば、コールとプットのインプライド・ボラティリティは同じになるはずだが、実際の市場では同じにならない。市場の需給や相場観を反映し、インプライド・ボラティリティに差が生じるため、**コールからプットを引いた差分**をリスクリバーサルと呼ぶ。例えば、リスクリバーサルがドルコール（上サイド）の高くなる方向に動いたとすると、オプション市場が将来ドル円スポットの上昇する確率が高くなったと考えていることを表している。

ストラドル – **同じストライクのドルプットとドルコールを同時に購入**することで、上下どちらにでも大きく動けば収益が上がるポジションを作ることができ、ストラドルと呼ばれる。将来の価格変動率の予想であるインプライド・ボラティリティが、自分の予想する値動きよりも小さいと思う際にはストラドル購入によって収益を狙う。インターバンクでは逆に同時に売却することもある。

イベント・プレミアム – 米雇用統計などの重要イベントに対して、インプライド・ボラティリティからどの程度の価格変動が織り込まれているかを計算することができる。その**特定イベントによって追加される価格変動**をイベント・プレミアムと呼ぶ。SBI リクイディティ・マーケットではイベント・プレミアムを**日数ベース**で管理している。

デルタ – デルタは**スポットの動き対するオプションの価値変動を表したリスク・パラメーター**。1つのオプションに注目した場合、そのオプションが持つデルタは、基本的にオプションの取引量に対して0%～100%の間の値を取る。例えば、100枚のドルコールオプションを買い、デルタが50%だった場合、50枚分のスポットを持っているのと同じ値動きをすることを表す。

その他の用語解説は HP 上にあるオプション FX の用語一覧をご参照ください。

バックナンバー

バックナンバーはHP上にあるオプションレポートバックナンバーをご参照ください。

筆者略歴

鈴木 亮（Ryo Suzuki）

SBIリクイディティティ・マーケット株式会社 経営企画部 部長

SBIリクイディティティ・マーケット株式会社の経営企画部長として情報発信や新商品開発を通してオプションFXのビジネス拡大に努める。2009年、三菱東京UFJ銀行（現、三菱UFJ銀行）入社、以来約10年間通貨オプショントレーディング業務に従事。約4年間のニューヨーク勤務を経て、ヘッドオプショントレーダー就任。2019年より現職。

※お客様は、本サービスで表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、 複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。

※情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。 また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いません。

※本サービスは、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。